

| 事業区分 | 文化芸術事業 | | 育成・創造事業 | | |
|----------------|--|----|---------|----|--------------------|
| 事業名 | ARTS FOR EVERYONE ココロのサプリ | | 助成:文化庁 | | |
| 目的・内容 | 施設の特性を活かしながら、誰もが芸術文化に親しむ環境を生み出していくために実施。芸術文化に親しみが無い方々に、多様なジャンルのアートを届け、新しい鑑賞者開発を行う。また、アートマネージャー主体の運営を目指すため、年間を通じてアートマネージャー育成を行う。その他、インターンシップ受入事業として、大学との連携を図る。 | | | | |
| 開催日時 | ①平成22年5月15日(土) 12:05~12:55 ピアノによるショパンの名曲コンサート ②平成22年6月26日(土) 12:05~12:55 器楽、声楽、合唱によるコンサート ③平成22年8月21日(土) 12:05~12:55 チェロ、ピアノ、声楽によるコンサート ④平成22年9月26日(日) 12:05~12:55 歌とピアノによるコンサート ⑤平成23年1月10日(月・祝) 13:30~15:00 箏と三絃、人形浄瑠璃芝居、朗読、素浄瑠璃の公演 | | | | |
| 会場 | とりぎん文化会館フリースペース(①②④)、リハーサル室(③)、小ホール(⑤) | | | | |
| 参加料 | 無料 | | | | |
| 実施状況 | 参加者数 825名 | | | | |
| 事業費状況 | 予算額 | 収入 | 0円 | 支出 | 1,275,000円 収支比率 0% |
| | 決算額 | 収入 | 0円 | 支出 | 1,182,484円 収支比率 0% |
| 参加者アンケート(主なもの) | <ul style="list-style-type: none"> ・気軽にクラシック音楽に触れることができ、とても良いイベントだと思います。 ・とても身近なところで聴くことができ良かった。 ・若い人達が一生涯演奏し、それを市民が温かく見守りつつ、楽しんでいる情景はとても素晴らしい。 ・小さい子どもがいると生演奏を聴きに行く機会が少ないので、またこういった場を開いてほしいです。 ・伝統芸能は敷居が高い感じでしたが、こんな風に知らないことを前提にしたイベントはとてもうれしいです。 ・2月に文楽公演を予定にしていますが、それに先立ち今日の公演は大変参考になりました。 ・フリースペースでの演奏は音が散って聴きにくい感じがしました。 ・周囲の雑音が多く、残念でした。 | | | | |
| 1次評価(内部) | <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代のアートマネージャーと協働することで、アートマネージャーの育成とともに、新たな視点を取り入れた内容で実施ができ、本事業に広がりが見えた。 ・ラジオやメールマガジンを活用した広報、外国の方向けの英語ポスターなど新たな試みも行った。結果、新規顧客獲得率が34.4%で、最高68%だった回もあった。 ・昨年度に引き続き、鳥取大学と連携してインターンシップを導入し、アートマネージャーの育成が図れた。また、若い世代の取り込みに成果が見られた。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンスの質に関しては高い水準をキープできたが、本公演の出演者が出演している訳ではないため、プレ事業としては位置付けが不明瞭であった。 ・マンネリ化しないように、新しい人材を発掘しつづける努力が必要である。 | | | | |
| 2次評価(財団評議員) | <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料のコンサートで気軽にコンサートを楽しむ空間をつくること、アートマネージャーを育成することが実現されている。また、とりぎん文化会館に足を運ぶきっかけになっている事業である。 ・不慣れなアートマネージャーの卵に事業を委ねるのはじれったいことも多かろうが、そうでもしないと次代は育たない。若い人が「これまで」のやり方を学んでいく中で矛盾点を発見し「これから」のやり方を見出してくれることもある。 ・事業の推進姿勢は概ね評価できる。また、事業の振り返りも十分になされている。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「財団主催事業のプレ公演」として実施することは、主催事業に合わせることによる演目、準備期間の面での制約なり負担を出演者側にかけてしまうことや、公演数が多くとれないなどの問題点がある。 ・簡素でも気配りのある最低限の演出が必要である。 | | | | |
| 今後の対応、取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、可能な限り本公演の出演者・関係者を招聘するようにし、パフォーマンスの質の高さだけでなく、アーティスト個人の魅力を伝え、本公演の集客に繋げるようにしていく。→実施中 ・引き続き、鑑賞者と出演者を繋ぐアートマネージャーの人材確保に努めるとともに、より早く計画的に運営し、効果的な広報や空間づくりを行っていく。→実施中 | | | | |